

こく　　みん　　しよつ　　き 国民食器

■ 出土地：中城御殿跡、神山古集落

これらの食器は『工場食器』や『統制陶器』、『国民食器』と呼ばれるものです。

太平洋戦争が悪化し始めると、資源が少ない日本では資源節約のため、物資の統制が行われました。陶磁器生産においても燃料節約のため、いくつかの窯元が統合されたり、生産する陶磁器の種類制限など、様々な規制がなされます。窯元の銘も禁止され、番号化した文字が使われるようになりました。それが食器の高台の内側にある“生産者別表示記号（統制番号）”です。

統制番号は、産地の略号と数字との組み合わせになっており、生産者毎に一種類の記号・番号が記されています。

今回、愛媛県の砥部地域とべで作られ、「〇ト（丸内のト）」と刻印された磁器『スンカンマカイ（沖縄での呼称）』と、岐阜県土岐市土岐津町とぎ　とぎつで作られたことを示す「岐」が刻印された磁器を展示しています。

1940年から戦後直後の1946年という短い間に生産されたことから、近代の時間軸を知り得る考古資料として重要な役割を担っています。